

第3学年1組 道徳科学習指導案

【日時】令和7年7月23日(水) 13:30～14:15 【場所】3年1組教室 【指導者】田中 大介

本授業の参観の視点

児童一人一人が様々な道徳的価値を基に問いをもち、その解決に向けて他者と議論することを通して、よりよい友達とはどのような存在なのか、考えを広げ、深める姿をご覧ください。

- 1 主題名 友だちだからこそ 【中心価値：B－9友情、信頼】
【周辺価値：A－2正直、誠実 B－7親切、思いやり】

2 教材名 『絵葉書と切手』（新・みんなの道徳3 学研）

3 題材の構想

(1) 題材について

本題材は内容項目「友情、信頼（友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと）」に関わるものである。友情の本質は切磋琢磨であり、友達同士で励まし合い、競い合いながら、互いに高め合う関係性の中で育まれる。中学年では、同じ志向のものが仲間集団を形成し、他の集団から一線を画して行動しようとする傾向がある。望ましいこともそうでないことも、集団の中で助長されることがある。そのような関係性の中で、相手との不和が生じることに不安をもつことが増える。仲のよい友達だからこそ気を遣って本当のことを言えないという葛藤が生じるのはそのせいである。上記のことから、今後は友達の言動に対して是々非々で向き合うとともに、問題があれば適切に忠告できるようにすることが求められる。それは、小学校高学年、中学校においてさらに友情を深め、本当の意味で信頼し合える関係性を築く上で重要な要素となる。

本教材は、引っ越した親友から料金不足の絵葉書が届いたことで、正直に伝えるべきか（正直、誠実）、相手のことを思いやってあえて伝えないでおくか（親切、思いやり）で悩むひろ子の話である。ひろ子の悩む姿から、友達の間違いを指摘することの難しさを共感的に捉えることができる。兄と母親のアドバイスから、料金不足を伝えるべきか否か、比較しながら考えることができる。本教材は、友達としてどのような言動が望ましいのかを吟味し、よりよい友達関係について考えるのに適した教材だと言える。

(2) 児童について

本学級の児童（35名）は、クラスの友達と協力して学校生活を送ろうとする意識が高い。趣味や嗜好によって少しずつ仲のよい集団が形成され、それぞれの集団で遊ぶ姿が見られる。その中で集団内での友情が深まりつつある反面、友達に対してなかなか正直に伝えきれない様子も出てきた。「よい友達とはどのような人か」という質問に対し、20名（57%）の児童が「やさしい」「けんかをしない」といった回答をしたことから、温かい人間関係を望む傾向が高いことが伺える。また、「友達が間違えていたら、それを正直に言えるか」という質問に対しては、5名（14%）の児童が「できないかもしれない」あるいは「できない」と回答した。これらのことから、温かい関係を望むからこそ、友達に正直に伝えられない児童が一定数いるということが推察される。また、コミュニケーションスキルに関わる質問に対する回答は表1の通りである。

表1 コミュニケーションスキルに関わる質問紙に対する回答（人）

スキル	質問内容	◎	○	△	×
自己主張	自分の考えを友達に伝えることは得意ですか。	18	12	3	2
他者受容	友達の考えに対し、「なるほど」「それいいね」などと思うことは多いですか。	13	21	1	0
関係調整	自分と友達の考えがちがったとき、おたがいの意見を大切にすることはできますか。	15	15	4	1

自分の考えを伝えたり、互いの意見を大切にしたりすることに苦手意識を感じている児童が数名いることから、特にそれらの児童に対して何らかの手立てを講じる必要があると考える。

(3) 指導について

指導に当たっては以下の3点に留意する。1点目は、児童の問いを大切にすることである。教材文を読んだ後、児童一人一人が問いを設定する時間を設けることで、自分事の学びに向かえるようにするとともに、「正直に伝える」や「相手を思いやる」など、多様な道徳的価値を視点とした問いが生まれるようにしたい。2点目は、自由に学び合う場を設定することである。児童同士のコミュニケーションスキルを発揮する場として「おさんぽタイム」を設定し、児童の立てた問いを解決できるようにする。自己主張の苦手な児童に対しては、同じ問いをもつ児童と話してみるよう促し、関係調整の苦手な児童に対しては、比較を促す働きかけを行うことで、コミュニケーションが活発に進むようにする。3点目は、価値理解を深める教師の発問を設定することである。児童が立てた問いの傾向を把握した上で全体に問うことで、児童の思考に沿った授業展開を心がける。また、主題に関わる「よい友達とは」というテーマ発問を最初と最後に行い、その変容を価値付けることで、児童が友情に対する価値観の更新を実感できるようにする。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本題材及び本時における児童の姿を、小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、下記のように整理する。

本題材のねらい：
相手のことを思いやり
ながら、正しいと思うこ
とを率直に伝える態度
を養う。

ステージD 「実生活・実社会」

- ・自分だったらけんかになるのが怖くて正直に言えないかもしれないな。
- ・手紙じゃなくて、直接伝えた方が相手にちゃんと伝わると思うよ。
- ・友達なら、きっと分かってくれるよ。私もそういうことがあったもの。



自己の経験を振り返り、道徳的問題場面と重ね合わせることで、課題解決の方法について考えようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

→ 自己と重ね合わせて考えている児童を価値付け、称賛することで、全体に広げる。

ステージB 「同教科」

- ・きちんと伝えることは大切だけど、友達だからこそ言いにくいこともあるな。
- ・自分が正しいと思ったことを伝えないと、相手にとってもよくないと思うよ。



自分が正しいと判断したことは、自信をもって伝えようとする心構えをもっている。
〔道徳科「正直、誠実」〕〔道徳的意欲〕

→ 道徳科で学んだことを端的な言葉でまとめることで、一般化を図る。

ステージB 「同教科」

- ・正直に伝えると相手は傷付くだろうな。相手にとって嬉しいのはどっちだろう。
- ・私が思うよりよい親切はどちらだろう。



ときには自分に不利益があっても相手のことを思いやり、親切な行動をとることの大切さに気付いている。〔道徳科「親切、思いやり」〕〔道徳的心情〕

→ これに類する児童の発言があれば取り上げて全体に問うことで、相手のことを考えた行動とはどのようなものか、具体的に考えられるようにする。

ステージC 「他教科等」

あふレル会（学級会）では、友達の意見を取り入れながら、みんなが納得する解決方法を考えていたよね。



課題の解決のために話し合う中で、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる。〔特別活動「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」〕〔思考力、判断力、表現力等〕

→ これまでの学級活動で出てきたよりよい解決方法や課題点について、活動ごとにまとめ、掲示する。

ステージC 「他教科等」

- ・せっかく送ってくれたはがきだからこそ、ひろ子は悩んでいるんだよね。
- ・正子もきっとひろ子に喜んでもらいたかったんだよ。



手紙には、考えたことや伝えたいこと、相手への思いを表す働きがあることに気付いている。
〔国語科「思いをこめて手紙を書こう(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項A」〕〔知識及び技能〕

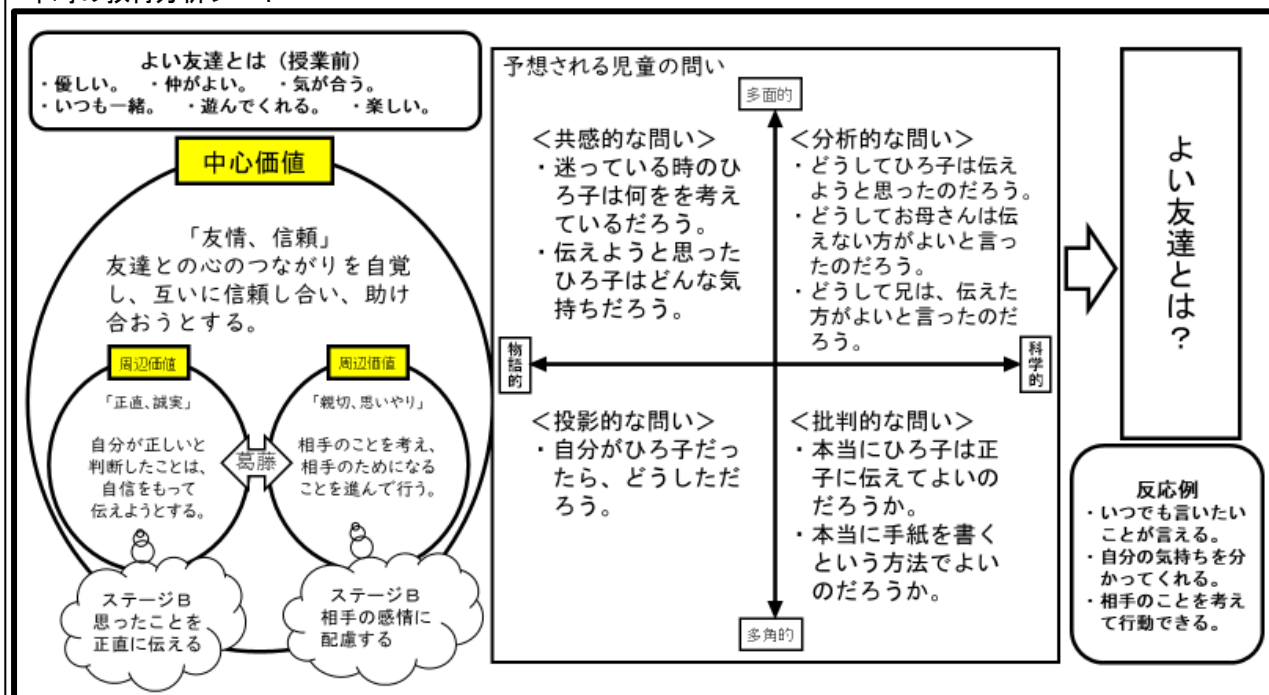
→ 実際に手紙を書いたときの思いを問う。

4 教材分析シートおよび事前、事後の学習活動

事前の学習活動

ステージD 「日常生活での友達との関わり」(4～7月) 【友情、信頼に関連】 友達と協力して取り組んだり、学び合ったりすることで友情を深める。	ステージB 道徳科 「フローレンス・ナイチンゲール物語」(6月) 【B-7 親切、思いやり】 自分だけの思いから発した親切と、相手の立場で考えた親切の違いに気づき、相手への真心のこもった親切をしようとする心情を育てる。 ステージB 道徳科 「あと、一言」(7月) 【A-2 正直、誠実】 友達に対して間違いを指摘することの難しさに共感しながらも、誰に対しても自分が正しいと思ったことは自信をもって行おうとする態度を養う。	ステージC 特別活動 「あふレル会」(4～7月) 【学級や学校における生活づくりへの参画】 学級の課題解決のために話し合う中で、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。 ステージC 国語科 「思いをこめて手紙を書こう」(7月) 【言葉の特徴や使い方に関する事項】 友達に対する手紙を書く中で、手紙には、考えたことや伝えたいこと、相手への思いを表す働きがあることに気付けるようにする。
---	--	---

本時の教材分析シート



事後の学習活動

ステージD 「日常生活での友達との関わり」(9月～) 【友情、信頼に関連】 友達と協力して取り組んだり、学び合ったりする際、<u>不和を調整しながらも自分の意見を率直に伝え合い、高め合っ</u>て友情を深める。	ステージB 道徳科 「みんなの学級会」(11月) 【B-10 相互理解、寛容】 自分と異なる意見であっても、<u>相手の言葉に耳を傾け言葉の裏側にある思いに気づき、相手を理解して行動していこうとする判断力</u>を育てる。	ステージC 特別活動 「あふレル会」(9月～) 【学級や学校における生活づくりへの参画】 学級の課題解決のために話し合う中で、<u>自分の考えたことを率直に伝え合いながら、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践</u>することができるようにする。
---	---	--

5 本時の指導（1／1）

(1) ねらい

相手のことを思いやりながら、自他にとってよいと思うことを率直に伝えようとする態度を養う。

(2) 評価（個人内評価）

ひろ子の葛藤に共感しながら、これまでの学習や自分の経験と重ね合わせ、友達としてのよりよい行動はどのようなものか考えている。

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる姿とその手立て）

学習活動と児童の反応（{ }）	教師の働きかけと形成的評価（◆）及び主な発問（○）
1 よい友達について考える。（5分） ・やさしい。 ・けんかをせずに仲がよい。 ・気が合う。 ・いつも一緒にいる。 ・楽しい。 ・一緒に遊んでくれる。 2 教材を読みながら今日の問いを立てる。（10分） ・どうしてひろ子は正子に伝えようと思ったのだろう。 ・自分がひろ子ならどうしていただろう。 ・本当にひろ子は伝えてよかったのか。	1 事前アンケートの回答を紹介することで、友達について、現時点で自分がどのような考えをもっているか確認できるようにする。また、他の意見についても共有し、クラス全体の傾向をつかめるようにする。 ○「今日考えたいこと、話し合いたいことは何ですか。」 2-(1) 範読後に、ひろ子が悩んでいることについて確認することで、道徳的問題場面について共有できるようにする。 2-(2) 机間指導を行い児童一人一人の問いを把握し、種類ごとに板書して紹介することで、問いをもてない児童の支援とする。
どうしてひろ子は正子に伝えようと思ったのだろう。 など	
3 友達と学び合う。（10分） ・ひろ子は正子のために伝えようと思ったんじゃないかな。 ・伝えなかったら正子はまた間違えちゃうかもしれないよ。 ・伝えたらけんかになってしまうかもしれないから、伝えない方がいいと思うよ。 ・伝えたら正子が悲しむと思うから伝えない方がいいと思うよ。 ・せっかく葉書を送ってくれたのに。	3-(1) 机間指導を行い、学び合いが進まない児童に対しては、似ている問いをもつ児童同士に交流するよう促すことで、課題解決に向けた話ができるようにする。 3-(2) 自己主張、関係調整のできている児童を称賛することで、児童が学び合いの内実を省察できるようにする。
4 全体で交流する。（10分） ・教えた方がよいと思う。その方が正子のためになるから。 ・教えた方がよいと思う。正子は仲良しの友達だからきっと分かってくれると思う。 ・自分だったら教えないかな。だって教えることで正子を傷付けたくないから。 ・手紙に書く以外に方法はないのかな。	◆ これまでの学習や自己の経験と重ね合わせながら課題について考えたり、話し合ったりしている。（観察） → 児童の発言に応じて、詳細や理由、自分だったらどうするか等を問い、具体化することで自己のこれまでの学習や経験を想起できるようにする。（BCD）
5 改めてよい友達について考える。（5分） ・言いたいことを言える友達。 ・まちがいを教えてくれる友達。 ・自分のことをよく分かってくれる友達。 ・相手のことを思いやってくれる友達。 ・これからは友達に自分の思いを正直に伝えられるようになりたいな。	○「自分がひろ子ならどうした方がよいと思いますか。」 4-(1) <u>自分がひろ子だったらどうするか、という問いについて考えている児童を取り上げ、全体で意見を出し合うことで、それぞれの意見を比較しながら考えることができるようにする。（BCD）</u> 4-(2) 教えた方がよい、教えない方がよい、のどちらの立場にも理由を尋ねることで、意見は違っても相手の立場に立って行動しようとしていることに気付けるようにする。 ○「改めて、よい友達って、どんな友達だと思いましたか。」 5-(1) 発言の根拠を問うことで、児童一人一人のもっている価値観が明らかになるようにする。 5-(2) 「学習を通して新たに気付いたこと」があれば取り上げるとともに、その意義を確認することで、価値観の更新を実感できるようにするとともに、今後の実生活に生かしていきたいという意識をもてるようにする。 5-(3) 「いつでも相手に率直に伝えてよいか」「どんなことも黙っておいた方がよいか」など、いくつかの状況を提示することで、多面的に考えられるようにする。
6 本時を振り返る。（5分） ・これからは、友達が間違えていたらきちんと教えてあげたい。 ・相手の気持ちを考えることが一番大切だと思った。 ・〇〇さんの意見になるほどと思って、自分の考えが変わった。	6-(2) 振り返りの記述に「これからの自分に生かしたいこと」「新しく自分が発見したこと」「友達の意見のいいところ」があれば称賛し、価値付けることで、価値観の更新や友達との交流に対して意欲をもてるようにする。